

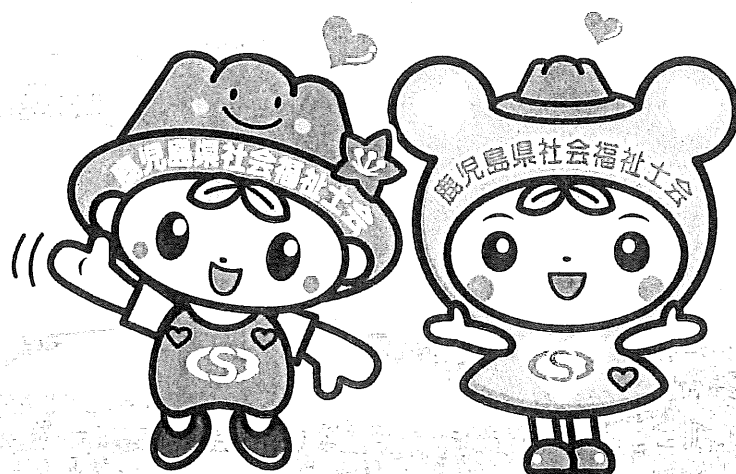
第22回日本社会福祉士会全国大会

社会福祉士学会（鹿児島大会）

開催要綱

変化する社会構造と社会福祉士

～多様な福祉ニーズに応えるために～



フツピー

フクミン

会 期

2014年7月5日(土)・6日(日)

会 場

宝山ホール・かごしま県民交流センター

主 催

社団法人日本社会福祉士会
公益社団法人鹿児島県社会福祉士会

第22回日本社会福祉士会全国大会 社会福祉士学会（鹿児島大会）

開催要綱・目次

○日本社会福祉士会全国大会の開催にあたって	2
-----------------------------	---

社団法人日本社会福祉士会 会長 鎌倉 克英

○変化する社会構造と社会福祉士～多様な福祉ニーズに応えるために～	3
--	---

公益社団法人鹿児島県社会福祉士会 会長 久永 繁夫

（第22回日本社会福祉士会全国大会

社会福祉士学会 鹿児島大会 実行委員長）

・第22回日本社会福祉士会全国大会 社会福祉士学会（鹿児島大会）開催要綱 ..	6
---	---

・講師紹介	9
-------------	---

・第22回社会福祉士学会	12
--------------------	----

分科会発表申込要領	17
-----------------	----

分科会発表申込書【A～F分科会】	19
------------------------	----

発表原稿記載様式	21
----------------	----

分科会発表原稿申込チェックリスト	25
------------------------	----

自主企画シンポジウム申込書	26
---------------------	----

・日本社会福祉士会全国大会 社会福祉士学会 全国大会プレ企画	29
--------------------------------------	----

「事例研究ワークショップ申込書」

・参加申込詳細	30
---------------	----

参加申込の手順	36
---------------	----

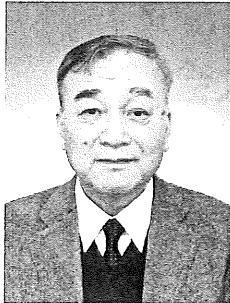
参加申込書	38
-------------	----

第 22 回日本社会福祉士会全国大会
社会福祉士学会 （鹿児島大会）

開 催 要 綱



日本社会福祉士会全国大会の開催にあたって



社団法人 日本社会福祉士会
会 長 鎌 倉 克 英

第22回日本社会福祉士会全国大会を鹿児島県鹿児島市で開催いたします。

本大会のテーマは「変化する社会構造と社会福祉士 ～多様な福祉ニーズに応えるために～」です。大会テーマにある「変化する社会構造」に伴う「多様な福祉ニーズ」への適切な対応が必要であるということは、日本社会福祉士会が設立以来22年間言い続けてきていることです。しかし私たち社会福祉士はそれに十分応えられず、私たちの願う「安全で安心な社会」を創り出せていません。

この22年間、阪神・淡路大震災、東日本大震災およびそれに伴う原発事故等により、私たち国民の生活は安全、安心を脅かされてきました。これらの災害の収束は精神面を含め簡単にできないことを私たちは知りました。

私たちの生活を守る社会福祉は、1997年に始まった社会福祉基礎構造改革から介護保険制度創設、社会福祉事業法の改正に伴う社会福祉法施行と大きな変化を経てきました。この流れは、高齢者から障害者、児童福祉等福祉分野のみならず、周辺領域にさまざまな影響を与えています。そして、社会福祉士の働きを必要とする状況が多くなっています。

また、2011年の民主党政権時に、社会保障の充実・安定化と、そのための安定財源確保と財政健全化の同時達成を目指すことを目的としてスタートした「社会保障と税の一体改革」が、政権交代をはさみ改革を進めているため、関係する制度政策がまだ十分に機能しているとは言えません。

平成24(2012)年版厚生労働白書は、「社会保障を考える」をテーマに掲げて、「日本の社会保障制度は、急速な少子高齢化に代表されるように社会経済情勢が大きく変化する中で改革の必要に迫られおり、もはや先送りできない局面にある。現状を正しく把握した上で、どのような社会を目指し、どのような社会保障制度を設計するか、国民全体で考える時期に来ている。」と記しています。

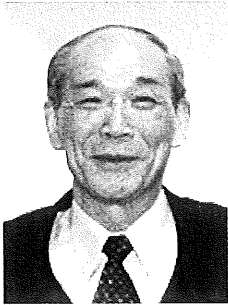
今まさに本大会テーマのもとに全国から社会福祉士が一堂に会し、協議し連携を強めることは誠に時宜を得たものであります。

私たち社会福祉士は、福祉を必要とする個人への支援、地域の福祉向上への貢献、および社会福祉士の働きの社会的認知に努めることが使命です。今後検討される制度政策において、社会福祉士をより活用していただき、より良い福祉社会を創り上げたいと願うものです。

公益社団法人鹿児島県社会福祉士会の皆さまには、全国大会を開催するにあたり、実行委員会を中心として多くの関係者のご支援とご協力により、着実に大会準備を進めていただいておりますことに厚くお礼を申し上げます。

全国の都道府県社会福祉士会に所属される個人会員の皆さまにおかれましては、この鹿児島大会を有意義な大会にするため、ぜひともご参加くださいますようお願いいたします。

変化する社会構造と社会福祉士 ～多様な福祉ニーズに応えるために～



公益社団法人 鹿児島県社会福祉士会
会 長 久 永 繁 夫
(第22回日本社会福祉士会全国大会
社会福祉士学会(鹿児島大会)実行委員長)

今回の大会では「変化する社会構造と社会福祉士～多様な福祉ニーズに応えるために～」というテーマのもと、鹿児島の地で開催します。今日の激動する社会の中で社会福祉士は、利用者の尊厳を守り、誰もが暮らしやすい社会を実現するために、どのような役割を果たすことができるかを考えます。

昨年の岩手大会では「参加と自立を実現する地域社会を創造するための社会福祉士の実践」のあり方が議論され、地域社会の中で対象者と共にある実践のあり方が示されました。そのことを受けて、福祉サービス利用者と共にあり続けるためにはどうすればいいのか、多様な福祉ニーズにどのように応えるかという視点から更に議論を深めていきたいと思います。

社会福祉士は、我々も同じ社会に生きる者という自覚を持って、対象者が生活する状況を的確にとらえ、対象者に寄り添いながら、専門職として生活を支援します。また、私たちの生活は社会と切り離して考えることはできません。基盤となる社会にも意識を向ける必要があります。

現在のわが国について考えてみると、1970年(昭和45年)に高齢化社会を迎えて以来、急速に少子高齢化が進行し、家族構造や地域社会は大きく変化しています。また、経済のグローバル化などが経済的格差を大きくしました。そこで、人とのつながりを持てずにいる人、経済的に困窮している人など、社会福祉の支援を必要とする人々を多く生み出しているという現実があります。

そのような社会の中で、社会福祉の原点に立ち返り、「しあわせ」な社会を実現するため、社会福祉はどのような役割を果たし、どういう社会を目指すのか。また、社会福祉士として実践を続けていく時、変わることなく持ち続け、磨き続けていかなければならない、「価値」、「知識」、「技術」について、再確認したいと思います。

さて、鹿児島には605個の離島があり、南北の距離は600kmに及びます。噴煙を上げる桜島、世界遺産に登録されている屋久島、亜熱帯気候に属し珍しい生物も多数生息する奄美群島など豊かな自然に恵まれています。また、温泉も多く、食べ物もおいしいので、大会後はゆっくり温泉につかって、リフレッシュしていただけるのではないかと思います。大会への参加と観光も兼ねて、是非鹿児島においでください。鹿児島県社会福祉士会会員一同、皆様にお会いできることを楽しみにしております。

2014年3月3日

都道府県社会福祉士会会員各位

社団法人 日本社会福祉士会
会 長 鎌倉 克英
(公 印 省 略)

第22回 日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会（鹿児島大会）の
開催について（ご案内）

拝啓 早春の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

また、本会事業の推進につきましては、平素より格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本年7月5日（土）から6日（日）にかけて、第22回 日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会（鹿児島大会）を鹿児島県鹿児島市にある、宝山ホール、かごしま県民交流センターにて開催することといたしました。詳細は、別添「開催要綱」のとおりです。

本大会は、「変化する社会構造と社会福祉士 ～多様な福祉ニーズに応えるために～」をテーマに開催いたします。参加者一人ひとりがこの大会テーマに基づき実践課題を見出し、自己研鑽を深める機会としてご活用いただければ幸いです。

都道府県社会福祉士会に所属する会員数も37,000人を超え、全国各地において社会福祉推進の一翼を担い、各都道府県社会福祉士会の活動もますます充実してきています。今後も皆さまとともに、活動の更なる充実に向けて邁進してまいりたく、是非ご参加くださいますようご案内申し上げます。

末筆ながら、皆さまの一層のご活躍をお祈り申し上げます。

敬具

2014年3月3日

(所属長)

様

社団法人 日本社会福祉士会
会 長 鎌倉 克英
(公 印 省 略)

第22回 日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会（鹿児島大会）の
開催について（お願い）

拝啓 早春の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

また、本会事業の推進につきましては、平素より格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。おかげをもちまして、都道府県社会福祉士会に所属する会員数も37,000人を超え、全国47の都道府県社会福祉士会を通じて活動も順調に発展を続けております。

さて、本年も厚生労働省、鹿児島県、鹿児島市、全国社会福祉協議会等のご後援をいただき、下記のとおり7月5日（土）から6日（日）にかけて、第22回 日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会（鹿児島大会）を鹿児島県鹿児島市にある、宝山ホール、かごしま県民交流センター等にて開催いたします。

本大会は、「変化する社会構造と社会福祉士 ～多様な福祉ニーズに応えるために～」をテーマとして掲げ、社会福祉士の役割と可能性について研鑽を深める機会とする予定です。業務多忙の折、誠に恐縮に存じますが、貴下職員である社会福祉士の全国大会への出席について、特段のご配慮を賜りたくお願い申し上げます。

なお、プログラム等の詳細につきましては、都道府県社会福祉士会会員を通じてお目通しいただければ幸いです。

末筆ながら、貴職の一層のご清祥をお祈り申し上げます。

敬具

記

1. 日 時 2014年7月5日（土）～6日（日）
2. 場 所 宝山ホール（鹿児島県文化センター）、かごしま県民交流センター
3. 名 称 第22回 日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会
4. 参加者 都道府県社会福祉士会会員および社会福祉関係者（約1,000人を予定）
5. 後 援 厚生労働省、鹿児島県、鹿児島市、全国社会福祉協議会、他（予定）

第 22 回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会（鹿児島大会）

開催要綱

1. 大会テーマ 「変化する社会構造と社会福祉士～多様な福祉ニーズに応えるために～」

2. 大会趣旨

もともと「福祉」とは「しあわせ」や「ゆたかさ」を意味していました。では、現在の我が国は、果たして多くの人が幸せを実感できる社会になっているのだろうかと考え、そうとも言えない状況があるのではないのでしょうか。

わが国は 1970 年（昭和 45 年）に高齢化社会を迎えたと言われ、それ以降、急速に少子高齢化が進行しています。家族構造や地域社会のあり方は大きく変化し、人と人とのつながりの希薄化、地域社会の相互扶助機能の低下、そのような状況から、誰の助けも求めず孤立する人々や経済的に不安を抱える高齢者などが増加しています。それに加えて、情報化社会の進展や経済のグローバル化が、仕事のない若者や生活を営むのに十分な収入を得られない人々を生み出すなど、社会的格差は拡大傾向にあります。

そこで本大会では、社会福祉の原点に立ち返り、「しあわせ」な社会を実現するため、社会福祉はどのような役割を果たし、どういう社会を目指すのか、社会を俯瞰する視点から考えます。また、社会福祉士として実践を続けていく時、変わることなく持ち続け、磨き続けていかなければならない、「価値」、「知識」、「技術」について、再確認できるような議論を行います。

3. 会 期 2014 年 7 月 5 日（土）～6 日（日）

4. 会 場 宝山ホール・かごしま県民交流センター

5. 主 催 社団法人日本社会福祉士会、公益社団法人鹿児島県社会福祉士会

6. 参加定員 1, 000 名

7. 参加対象及び参加費

(1) 都道府県社会福祉士会会員 9, 000 円

(2) 一 般 10, 000 円

(3) 学 生 4, 000 円

※入会手続き中の方は、会員扱いとなります。

※1 日だけの参加も上記金額となります。

8. 懇親会費 会員・一般・学生とも 8, 000 円

9. 申込・問合せ先 トップツアー株式会社 鹿児島支店

〒890-0053 鹿児島市中央町12番2号

明治安田生命鹿児島中央ビル2階

TEL 099-257-0109 FAX 099-257-0115

【後 援】(予定・順不同・法人種類省略)

厚生労働省、鹿児島県、鹿児島市、福祉医療機構、全国社会福祉協議会、社会福祉振興・試験センター、日本社会福祉教育学校連盟、日本社会福祉士養成校協会、日本介護福祉士会、日本ソーシャルワーカー協会、日本医療社会福祉協会、日本精神保健福祉士協会、日本介護支援専門員協会、鹿児島県社会福祉協議会、鹿児島市社会福祉協議会、鹿児島県共同募金会、鹿児島県弁護士会、鹿児島県司法書士会、成年後見センターリーガルサポート鹿児島支部、鹿児島県医療ソーシャルワーカー協会、鹿児島県精神保健福祉士協会、鹿児島県ソーシャルワーカー協会、鹿児島国際大学、鹿児島県介護福祉士会、鹿児島県医師会、鹿児島県歯科医師会、鹿児島県看護協会、鹿児島県助産師会、鹿児島県理学療法士協会、鹿児島県作業療法士会、鹿児島県言語聴覚士会、鹿児島県知的障害者福祉協会、鹿児島県社協老人福祉施設協議会、鹿児島県介護支援専門員協議会、鹿児島県老人保健施設協会、鹿児島県身体障害者福祉協会、鹿児島県授産施設協議会、鹿児島県ホームヘルパー協会、日本認知症グループホーム協会鹿児島支部、鹿児島県認知症グループホーム連絡協議会、日本赤十字社鹿児島県支部、南日本新聞、南海日日新聞社、奄美新聞社、読売新聞社、毎日新聞社、朝日新聞社、福祉新聞社、南日本放送(MBC)、鹿児島放送(KKB)、鹿児島テレビ(KTS)、鹿児島読売テレビ(KYT)、NHK鹿児島放送局(NHK)、エフエム鹿児島、フレンズFM、鹿児島県福祉用具協会



宝山ホール

【会場周辺地図】



プログラム

第1日目 7月5日(土): 宝山ホール(鹿児島市山下町5-3)

(敬称略)

9:15~11:45	全国大会プレ企画「事例研究ワークショップ」
11:30~	受付開始
12:30~13:00	開会 主催者挨拶 鹿児島県社会福祉士会 会長 久永繁夫 (第22回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会(鹿児島大会)実行委員長) 来賓挨拶 来賓紹介
13:00~13:50	講演「これからの社会福祉士への期待」(仮題) 講師 厚生労働省 社会・援護局
13:50~15:20	基調講演「変化する社会構造と社会福祉士」(仮題) 講師 西九州大学健康福祉学部教授 古川孝順
15:20~15:35	休憩
15:35~17:50	シンポジウム「変化する社会構造と社会福祉士～多様な福祉ニーズに応えるために～」 コーディネーター 西九州大学 教授 古川 孝順 シンポジスト 共生ホームよかあんべ 代表 黒岩 尚文 (登壇順) ひさまつクリニック 院長 久松 憲明 リーガル・レヴュー司法書士事務所 司法書士 芝田 淳 社会福祉法人常磐会 理事長 久木元 司
17:50~17:55	翌日のインフォメーション等
17:55	第1日目終了/移動
18:45~21:00	懇親会 城山観光ホテル

第2日目 7月6日(日): 宝山ホール(鹿児島市山下町5-3)

かごしま県民交流センター(鹿児島市山下町14-50)

9:30~12:30	分科会
12:30~13:30	休憩
13:30~15:00	記念講演「変化する社会構造と社会福祉士」(仮題) 講師 鹿児島国際大学国際文化学部准教授 ジェフリー・アイリッシュ
15:00~15:20	大会総括 引継式(次回開催 石川県) 閉会の辞
15:20	閉会
15:45	オプションツアー出発

講師および出演者紹介

(登壇順・敬称略)



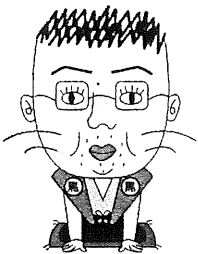
古川 孝順 (基調講演・シンポジウム コーディネーター)

現 職 : 西九州大学副学長・健康福祉学部教授

略 歴 : 日本社会事業大学社会福祉学部卒業、東京都立大学大学院人文科学研究科修士課程修了 博士(社会福祉学) (日本女子大学)。1982年日本社会事業大学教授、1991年東洋大学社会学部教授、1999年東洋大学社会学部長、2003年東洋大学大学院社会学研究科委員長、2005年東洋大学ライフデザイン学部長、2006年東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科委員長、2010年東洋大学生涯学習センター所長を歴任。社会活動としては、文部科学省大学設置・学校法人審議会専門分科会委員(1999年～2003年)、日本社会事業学校連盟副会長(1997年～2002年)、(社)日本社会福祉士養成校協会副会長・常務理事(2001年～2003年)、(社)日本社会福祉教育学校連盟副会長(2003年～2007年)、日本学術会議連携会員(2006年～2011年)、社会福祉士国家試験委員会委員長(2006年～2012年)、日本社会福祉学会会長(2007年～2010年)を歴任。

主な著書 : 『子どもの権利 イギリス・アメリカ・日本の福祉政策史から』(有斐閣)1982
『児童福祉改革 その方向と課題』(誠信書房)1991、『社会福祉論』(有斐閣)1993
『福祉ってなんだ』(岩波書店)2008、『社会福祉研究の新地平』(有斐閣)2008
『社会福祉学の探求』(誠信書房)2012、『福祉政策研究—回顧と展望—』(中央法規)2012、『社会福祉の新たな展望』(ドメス出版)2012

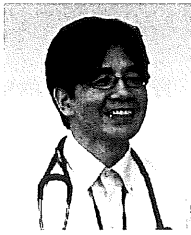
他多数



黒岩 尚文 (シンポジウム シンポジスト)

現 職 : 共生ホームよかあんべ代表、地域サポートセンターよいどこい代表
小規模多機能ホームたから代表、スマイルホームえん代表

略 歴 : 高校卒業時、お金が全く無くて進路指導の先生から「消防士がいい」と言われ喜んで受験。しかし見事不合格。気を取り直し当時最も学費の安い福岡大学商学部を受験。まぐれで合格。お好み焼きを4年間焼き続け卒業。卒業後、東京の不動産会社に入社。2ヶ月で鹿児島弁しか使えないことを見抜かれ福岡支店に流される。1年後、フリーの不動産屋となり東京へ戻る。多くの方々にご飯を食べさせて貰いなんとか生きていたがある朝、突然、顔面神経麻痺になり帰鹿。リハビリの甲斐あったか、無かったか1年程かかって今の顔。1995年4月より福祉の仕事につく。翌年5月より宅老所活動を始める。
2007年6月加治木町で共生ホームよかあんべという小さな小さな事業所を開設。細々とやっています。2010年5月よりトカラ列島宝島、北海道幌加内町にも関わる。



久松 憲明 (シンポジウム シンポジスト)

現 職 : ひさまつクリニック院長(医師・医療経営管理学修士)

略 歴 : 1967年生まれ。鹿児島県いちき串木野市生まれ。
1993年鹿児島大学医学部卒業。鹿児島大学リハビリテーション医学講座(現:運動機能修復学講座)入局。
2003年九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻。
2005年鹿児島県鹿屋市の介護老人保健施設ヴィラかのや施設長。
2007年医療法人恒心会おぐらリハビリテーション病院院長。
2013年鹿児島市に在宅医療(訪問診療、訪問リハビリ)に特化した「ひさまつクリニック」を開設、「いのちと生活を支え、一人ひとりの笑顔と満足を大切にする」を理念に掲げ、鹿児島市内を診療で走り回る日々を送っている。
リハビリテーション科専門医・指導医、介護支援専門員。



芝田 淳 (シンポジウム シンポジスト)

現 職 : リーガル・レノヴァ司法書士事務所(司法書士)

略 歴 : 2001年司法書士試験合格。2004年よりホームレス支援活動をはじめ、NPO法人鹿児島ホームレス生活者支援あう会の設立に関与し、現在、事務局長。また、福祉関係者らとともに、ホームレス生活者や長期入院者の方々のために連帯保証を提供する事業を行うNPO法人やどかりサポート鹿児島を設立し、現在、理事長。全国で24時間無料電話佐横断を行う「よりそいホットライン」を九州で実施している一般社団法人よりそい支援かごしまの代表でもある。
司法書士としては、成年後見業務に力を注いでおり、公益社団法人成年後見センター・リーガルサポート鹿児島支部副支部長を務める。
市民、法律家、福祉専門職、行政等のコラボレーションにより、誰もセーフティネットから漏れ落ちることのない支援、本人の立場に立ち本人によりそう支援の実現を目指す。



久木元 司 (シンポジウム シンポジスト)

現 職 : 社会福祉法人常盤会理事長

略 歴 : 発達支援センターひこばえ、発達支援事業しろやま、明星学園、ディライト、サポート明星、しろやまの風、就労支援センターウィズ等主に障害児・者への福祉事業を経営。厚生労働省「福祉サービス第三者評価基準検討委員会」委員、厚生労働省「新しい福祉を考える会」委員、鹿児島県社会福祉法人経営者協議会協議員、鹿児島市基幹型障害者相談支援センター運営協議会会長等を歴任。

主な著書 : 『福祉実践と地域社会』(ナカニシヤ出版) 編者2010
 『現代の社会福祉～100の論点～』(全国社会福祉協議会) 共著2010
 『鹿児島の福祉』(春苑堂出版) 共著1998
 『現代社会福祉』(ナカニシヤ出版) 共著2007
 『事故防止マニュアル1・2』(日本知的障害者福祉協会) 共著2008
 他多数



ジェフリー・S・アイリッシュ Jeffrey S. Irish (記念講演)

現 職 : 鹿児島国際大学准教授

略 歴 : ノンフィクション・ライター、民俗学研究者。1960年米国カリフォルニア生まれ。1982年、エール大学を卒業後、清水建設に入社。三十代より下甕島で定置網の仕事に就き、その後ハーバード大学大学院と京都大学大学院で民俗学を専攻。1998年より鹿児島県川辺町に移り住み、土喰集落の小組合長を2回務めた。日々の生活や田舎暮らしなどを南日本新聞に9年間連載。日本の知識人、梅棹忠夫や加藤周一などのインタビュー記事を英字雑誌に掲載。2010年から鹿児島国際大学の准教授として、地域創生、まちづくりなどについて教えている。2010年度南日本文化賞受賞。

主な著書 : 『アイランド・ライフ 海を渡って漁師になる』(淡交社) 1997
 『さすらいびと漂泊人からの便り』(南日本新聞社) 2002
 『里山の晴れた日』(南日本新聞社) 2003
 The Forgotten Japanese: Encounters with Rural Life and Folklore (宮本常一著『忘れられた日本人』の初英訳本) (Stone Bridge Press) 2010
 Doctor Stories, from the island journals of the legendary “Dr. Koto” (Science and Behavior Books) 2012
 『幸せに暮らす集落』(南方新社) 2013 他多数

第 22 回 社会福祉士学会

主旨 社会保障制度改革国民会議を始め、生活困窮者支援制度、障害者や児童に関する制度など社会保障制度、社会福祉制度が大きく変わりつつある現在、社会福祉士がどのように応えるかを考える。

1. 開催のねらい

(1) この 20 数年の間に、急速に少子高齢化が進行し、家族構造、地域社会のあり方は大きく変化しています。また情報化社会や経済のグローバル化の進展により、日本企業は厳しい市場競争に晒されています。このような社会経済の変化は、福祉現場への市場原理の導入、それに伴う利用者の意識構造の変化など、福祉現場にも大きな影響を与えています。そのような状況の中、人と人とのつながりが希薄になり孤立する人や認知症などの要介護状態にある孤独な高齢者、広がる経済的格差による貧困層の増加など、社会福祉の対象とする範囲も広がっています。

今学会では、より複雑に多様に変化する社会構造の中で、さまざまな課題を抱えながら生活する一人ひとりにどのように寄り添い、支えていけるかを考えます。また、これから社会福祉士としてどのように変化していかなければならないかを考えると同時に、社会福祉士として変わることなく持ち続け、磨いていかなければならない核になる価値、知識や技術について再確認する機会となるでしょう。

(2) 生涯研修制度の 6 領域（社会福祉士がとらえる「権利擁護」「生活構造」「相談援助」「地域支援」「福祉経営」「実践研究」）に即したそれぞれの発表を通して、これからの社会福祉士実践についての議論を共有します。

(3) さまざまな実践現場における社会福祉士の活動に基づく発表と質疑応答、意見交換を踏まえて、社会福祉士が目指す方向性を明らかにし、専門性の向上を図ります。

2. 分科会の構成

A 分科会：「変化する社会構造と権利擁護」（社会福祉士がとらえる「権利擁護」）

【会場：かごしま県民交流センター】

人権の擁護と社会正義の原理は、ソーシャルワーク実践の基盤である。人々が自らの権利を主張し、権利を獲得していく過程を重視しつつ、利用者本位の支援を実現するためには制度やネットワークの活用のみならず、ソーシャルアクションや市民参加による権利擁護システム構築が求められる。さまざまな課題を抱える人々が、安心して、その人らしい生活を送れるために、社会福祉士が果たすべき役割・機能について考える。

発表例 ○権利擁護の取り組み実践と課題

- 権利擁護にかかわる多職種連携やネットワーク
- 成年後見制度・日常生活自立支援事業の課題と展望
- DV・虐待事例など具体的ケースへの援助
- オンブズマン、苦情対応等による権利擁護の実際
- 権利擁護への住民参加の取り組み・推進事例

B分科会：「変化する社会構造と生活構造」（社会福祉士がとらえる「生活構造」）

【会場：かごしま県民交流センター】

生活課題は、社会とのインターフェースで起こるとされている。世間の価値観に生活者は影響を受けやすい。生活者と生活環境の関わりを見据えながら、社会福祉士は、生活構造を的確に分析・把握できる能力が求められる。人と環境との相互作用として生活全体をとらえ生活を動的に理解した上で、問題の背景や将来への見通しをも含めた支援を展開することが社会福祉士に求められている。「生活とは何か」「自立とは何か」「参加とは」を手がかりに、社会福祉士が果たすべき役割・機能について考える。

- 発表例**
- 生活問題の重層化・長期化・多様化への取り組み
 - 利用者の多様なニーズに対応するケアマネジメント
 - 若者の雇用環境、低所得者、失業問題など新たな生活課題への取り組み
 - 親子で抱える負の連鎖、教育機会の不均等、中途退学等など教育機会の確保
 - 滞日外国人等の生活問題への対応

C分科会：「変化する社会構造と相談援助」（社会福祉士がとらえる「相談援助」）

【会場：かごしま県民交流センター】

社会福祉士には、専門職としての「価値」「知識」「技術」に基づいた相談援助が求められる。「生活の質」「自立」「自律」など、生活のさまざまな側面に着目していかなければならない。また社会福祉士の活動範囲も広範となっている。潜在的な福祉ニーズを抱える者へのアウトリーチや地域や組織への働きかけ、さまざまな職種との連携も相談援助活動に含まれる。多様な分野で活躍する社会福祉士の機能・役割について考える。

- 発表例**
- 援助困難事例と家族療法
 - 問題解決過程で発生した専門職のジレンマ
 - 社会からの逃避と再参加にむけた支援法
 - 施設における利用者支援の実際と課題
 - クライアントを発見するアウトリーチの実際

D分科会：「変化する社会構造と地域支援」（社会福祉士がとらえる「地域支援」）

【会場：かごしま県民交流センター】

社会福祉士には、サービスが総合的かつ適切に提供されるよう、地域に即した創意工夫が求められている。地域を基盤とした支援の展開が重要視される現在、人々が生活する地域のあり方が変化している。個人・家族を取り巻く環境としての地域に働きかけ、変革を促し、新たな地域のつながりをつくるために、社会福祉士に求められる機能・役割について考察する。

- 発表例**
- NPO 法人によるあらたな福祉実践
 - 地域における生活困難者のサポート体制づくりと実践
 - 地域における多職種ネットワーク形成活動
 - 社会排除に関する実態把握とその支援
 - 社会資源の効果的活用と新たな資源創設活動
 - 独立型社会福祉士による実践

E分科会：「変化する社会構造と福祉経営」（社会福祉士がとらえる「福祉経営」）

【会場：かごしま県民交流センター】

持続可能な社会保障制度確立のために、制度の根本的見直しが検討されている。景気低迷の影響は福祉サービスにも影響を与え、サービスにかかる人件費の割合は減少している。このため、社会福祉分野の良質な人材確保に困難が生じている。多様な経営主体が参画する中で、顧客と職員両方の生活の質を安定的に保障すること、顧客の満足感に対応できるサービスが求められていることから、福祉サービスにおける品質管理は経営上の課題となっている。

発表例 ○各種法人の現状と課題

- 各種法人における品質管理の手法
- 人材育成・人事考課と職場管理の取り組み
- 職場における業務改善・業務開発
- 苦情対応やリスクマネジメントの現状と課題
- 外国人労働者及び緊急雇用対策における失業者の介護労働市場への参入における課題
- 公益法人のあり方と経営実践

F分科会：「変化する社会構造と実践研究」（社会福祉士がとらえる「実践研究」）

【会場：かごしま県民交流センター】

社会福祉士としてより質の高い支援を提供するためには、自らの実践を振り返り、評価・検証し、研鑽を繰り返すことによって力量を向上していくことが不可欠である。また第三者に対して、援助の意義や効果を根拠と共に適切に説明できる能力も求められる。さまざまな課題に取り組む社会福祉士の実践を検討することによって、社会福祉士が実践すべき援助活動について考察する。

発表例 ○社会福祉士の実践活動とその評価

- 社会福祉士養成教育における実習指導の現状と課題
- スーパービジョンや研修に関する実践報告
- 災害ボランティア等における社会福祉士の取り組み
- 出所者支援における社会福祉士の取り組み
- 犯罪被害者支援における社会福祉士の取り組み
- 就労支援における社会福祉士の取り組み

G分科会：「自主企画シンポジウム」

【会場：かごしま県民交流センター】

会員の自主的な企画によるシンポジウムです。社会福祉実践にかかわる内容であれば、テーマ・形式は問いません。養成機関と現場との連携、多職種ネットワーク、地域で検討されている課題、都道府県社会福祉士会での効果的な研修・研究の実践など、参加者と共に討議できる機会を大いに活用して下さい。

なお、他の分科会発表と申込要領に異なる部分がありますので、ご注意ください。

H分科会：鹿児島特別分科会

【会場：かごしま県民交流センター】

へき地・離島における社会福祉士への期待と役割

～超高齢社会・限界集落・医療過疎の現状と取り組み～

シンポジウム形式

※テーマについては、変更になる可能性があります。

I分科会：海外研修等報告会

【会場：かごしま県民交流センター】

前半は、公益財団法人社会福祉振興・試験センター主催の「社会福祉士・精神保健福祉士海外研修・調査」の2013年度派遣者のうち、社会福祉士として派遣された方による海外での社会福祉実践についての報告を行います。後半は、国際・滞日外国人支援委員会企画として、「インターナショナル・ソーシャルワークの現状と課題」と題した報告会を開催し、インターナショナル・ソーシャルワークにおける社会福祉士の役割等を考える機会とします。

3. 全国大会プレ企画『事例研究ワークショップ』について

日時：2014年7月5日（土）

9:30～12:00

会場：かごしま県民交流センター

（1）ねらい

日本社会福祉士会・学会運営委員会では、社会福祉士が自ら日々の実践を振り返り、より良いソーシャルワークを展開すること、また会員の実践研究能力を高め社会福祉士学会での発表や研究誌への投稿につながるよう、大会の開催に合わせて「事例研究ワークショップ」と「実践研究ワークショップ」を隔年で開催しています。

本年度の「事例研究ワークショップ」では、実践力を高めるための事例検討会の開催に向けて、企画の仕方や進め方等をワークショップ形式で学びます。「事例研究の方法」は社会福祉士会の基礎研修のカリキュラムにも含まれている重要な内容です。この機会に、ぜひふるってご参加ください。

（2）対象者

都道府県社会福祉士会会員の方のみご参加いただけます（入会手続き中を含む）。

（3）定員

先着50名（定員に達し次第、締め切ります）

（4）参加費

2,500円（資料代込）

（5）申込方法

申込方法等の詳細は、本開催要綱29ページをご参照ください。

★分科会発表採用者、プレ企画参加者は、鹿児島大会の参加申込が必要です。

★分科会発表者と発表テーマは5月下旬頃、日本社会福祉士会ホームページに掲載予定です。

第22回社会福祉士学会 分科会発表申込要領

下記の要領で分科会の発表者を募集します。ふるってお申し込みください。

	個人発表（A～F分科会）	自主企画シンポジウム（G分科会）
発表資格	都道府県社会福祉士会会員に限ります。 会員以外の方との共同研究の場合、発表要旨に共同研究者名を記すことはできますが、発表者は会員に限ります。 ※分科会発表採用者は、全国大会の参加申込みが必要です。	
申込数	一人一発表です。 個人発表と自主企画シンポジウムの両方への申込はできません。 ※すでに他学会等で発表したものと同じ内容の発表はご遠慮願います。 （都道府県社会福祉士会における学会等での発表は除きます）	
申込様式	以下の①～③の様式を揃えて提出してください。 ①社会福祉士学会 分科会発表申込書 【A～F分科会】 ②別紙：発表原稿記載様式（A4・2枚） ③社会福祉士学会 分科会発表原稿申込チェックリスト	以下の様式を揃えて提出してください。 ・社会福祉士学会 分科会発表申込書 【G分科会（自主企画シンポジウム）】
	※申込様式は、いずれも本会ホームページよりダウンロードしてください。	
申込	〒160-0004 東京都新宿区四谷1-13カタオカビル2F 日本社会福祉士会 学会運営委員会 担当：楠本（くすもと） TEL 03-3355-6541 FAX 03-3355-6543 申込受付は2014年1月10日（金）からです。郵送またはFAXにてお申し込みください。	
締切	郵送：2014年3月31日（月） 消印有効 FAX：2014年3月31日（月） 必着	
発表原稿作成上の注意	発表原稿記載様式（A～F分科会用およびG分科会用）は、下記の点に留意して作成してください。 1. 提出された原稿は抄録集の版下として印刷しますので、ワープロ等で作成した鮮明なものをお送りください。 2. 原稿全体を統一するため、本レジュメは事務局で若干の修正を加える場合があります。あらかじめご承知おきください。 3. 原稿はA4版横書き、1頁40字×40行、2枚で作成してください。 4. タイトル、サブタイトル、見出しのフォントはゴシック体、10pt、太字にしてください。 5. 共同研究者が都道府県社会福祉士会会員の場合は、氏名、会員番号、所属する都道府県社会福祉士会を記載してください。会員外の場合は、氏名と所属先名称を記載してください。役職名の記載は必要ありません。 6. 発表者及び共同研究者の氏名、所属先などの情報および本文のフォントは、明朝体、10ptとしてください。 7. 発表原稿記載様式の余白は、上下左右を25ミリとしてください。 8. 本文の見出しに使用するナンバーは以下のとおりとします。 I, 1, (1), 1, ① 9. 図、表、写真の解像度等はそのまま製版可能な水準で、通し番号、タイトルを付してください。 10. 和文中では算用数字、括弧、句読点は全角、英文中では半角に統一してください。 11. 引用文献は適切に記載してください。 12. 発表者氏名の前には「○」を付けてください。	

	個人発表（A～F分科会）	自主企画シンポジウム（G分科会）
審査	申込数・内容等を勘案・審査し、学会運営委員会が採否を決定します。 採用にあたっては、実践にもとづく発表・シンポジウム企画を優先することがあります。 内容等については、学会運営委員会が助言をする場合があります。 採用数が定数に満たない場合、追加募集する場合があります。	
採用数	◆採用数：約30発表 発表分科会は、原則として申込者の希望を優先しますが、テーマ・内容・応募数を勘案し、他の分科会で発表をしていただく場合があります。	◆採用数：1企画
採否通知	期日：2014年4月25日（金） 上記期日までに申込者に個別に採否を通知します。	上記期日までに、申込書に明記された連絡担当者に採否を通知します。
レジュメ提出	採用された方は、採用通知に記載された修正コメントに基づいてレジュメ（発表原稿記載様式）を修正してください。提出されたレジュメはそのまま版下原稿として使用しますので、ワープロ等で作成した鮮明な原稿を提出してください。 提出先：日本社会福祉士会 事務局（申込時の様式提出は必要ありません。） 期日：2014年5月16日（金）消印有効 期日までに提出のない場合には、採用を取り消し、発表を認めません。	
発表	時間配分： 一発表30分（発表15分、質疑応答15分）です。 <u>※発表は口述発表です。機材の使用はできません。</u> レジュメを活用し、当日資料の配付は必要最小限にとどめてください。	時間配分： シンポジウム全体を3時間以内で企画してください。シンポジストの人数および発表やフロアとの質疑等の時間配分は自由です。 <u>自主企画シンポジウムでは、パソコンやプロジェクターを持ち込んでの機材使用が可能です。スクリーンは会場で用意します。</u>
表	当日資料： <u>当日配付する資料がある場合は、各自で200部（G分科会は100部）ご用意ください。</u> 全国大会会場での印刷はできません。また学会運営委員会および大会実行委員会でのコピー対応はいたしません。	

※申込様式一式が本会事務局に届きましたら、受領ハガキにてご連絡いたします。

※各種申込様式は、本会ホームページからダウンロードできます。

※分科会発表者と発表テーマは5月中旬頃、本会ホームページに掲載します。

多くの会員の皆さまからのご応募をお待ちしています！！

◇問い合わせ先◇

（社）日本社会福祉士会 事務局 担当：楠本（くすもと）

TEL:03-3355-6541 FAX:03-3355-6543 E-mail:kusumoto@jacsw.or.jp

社会福祉士学会 分科会発表申込書【A～F分科会】

ふりがな	所属する都道府県社会福祉士会名：	
氏名	会員番号：	
	職種または役職	
所属先名称		
連絡先（自宅・勤務先）		
住所：	TEL	：
	メールアドレス：	
発表テーマおよび発表内容の概要		
テーマ：		
発表希望分科会（希望分科会を囲ってください）：		
A分科会 ・ B分科会 ・ C分科会 D分科会 ・ E分科会 ・ F分科会		
(分科会選択の理由)		
※発表内容は、別紙：発表原稿記載様式に記入してください。		
共同研究者：		
氏名（所属）、《都道府県》社会福祉士会（会員番号）		
同様のテーマでの発表履歴：		
学会運営委員会への連絡及び問い合わせ事項：		

社会福祉士学会 分科会発表申込書【A～F分科会】記入例

ふりがな ふくし あきこ	所属する都道府県社会福祉士会名：
氏名	□▽社会福祉士会
福祉 明子	会員番号：８８８８８８
所属先名称	職種または役職
○△□□▽	○△□□▽
連絡先（ ☒ 自宅・勤務先）	
住所：〒８８８－８８８８ □□県○○市△△△	TEL ：□□□－□□□□－□□□□ メールアドレス：○○○○@○○○○○○○○○○
発表テーマおよび発表内容の概要	
テーマ： 老人福祉施設におけるオンブズマン活動の検証とあるべき役割・機能について 発表希望分科会（希望分科会を囲ってください）： ☒A分科会 ・ B分科会 ・ C分科会 D分科会 ・ E分科会 ・ F分科会 （分科会選択の理由） ○○県のある老人福祉施設において、オンブズマン制度は利用者の権利擁護とサービスの質の向上を図るために４年前に導入された。本研究はオンブズマン活動の現状を振り返り、あるべきオンブズマンの機能・役割について考察しているものであるため、権利擁護をテーマとするA分科会での発表を希望する。 ※発表内容は、☒別紙：発表原稿記載様式に記入してください。 共同研究者： 社福 太郎（○△□□▽）、□▽社会福祉士会（９９９９９９） 同様のテーマでの発表履歴：なし 学会運営委員会への連絡及び問い合わせ事項：	

＜本記入例は、本人の了解を得て、過去の発表者の申込書記載内容を掲載しています。＞

別紙：発表原稿 記載様式【A～F分科会】

- ・《》の箇所には、《》内の内容を記載した後、《》内および《》そのものは削除する。
- ・（ ）内には、そこに書かれてある内容を記載し、（ ）そのものも残す。
- ・本文は明朝体で記載する。

《タイトル：ゴシック体》

《サブタイトル＝ゴシック体》

《一行空き》

○《発表者の氏名》（所属先）《都道府県名》社会福祉士会（会員番号）

《共同研究者氏名》（会員番号・所属社会福祉士会）、《共同研究者氏名》（会員番号・所属社会福祉士会）、《共同研究者氏名》（会員番号・所属社会福祉士会）

I. 研究目的

《この研究はどのように社会に貢献するか、意義があるかなど、研究目的を記述》

II. 研究方法

☐文献研究 ☐実証研究 ☐量的研究 ☐質的研究 ☐実践研究

《研究方法について上記から該当するものを選び（複数可）、「研究目的」の内容をどのような手順で明らかにするかを記述》

III. 倫理的配慮

《必ず明記する》

IV. 結果

《アンケート、インタビューなどの結果を記述》

別紙：発表原稿 記載様式【A～F分科会】

- ・《 》の箇所には、《 》内の内容を記載した後、《 》内および《 》そのものは削除する。
- ・（ ）内には、そこに書かれてある内容を記載し、（ ）そのものも残す。
- ・本文は明朝体で記載する。

V. 考察

《上記の結果を受けて、なぜそのような調査研究結果になったかの考察を記述》

VI. 結論

参考文献：

※おおむね以上のような構成として、必要に応じて見出しを工夫してください。

高齢者虐待防止のための養護者支援について
～虐待をしている養護者を理解するために～

○福祉 花子（よつや町地域包括支援センター）X 社会福祉士会（000000）
社会 一郎（999999・X 社会福祉士会）、福祉 次郎（888888・X 社会福祉士会）、
日本 幸子（777777・X 社会福祉士会）、平成 福子（666666・Y 社会福祉士会）

I. 研究目的

高齢者虐待防止法では、市町村が責任を持って虐待対応・養護者支援を行う事が明記されている。しかしながら、実践現場ではどのように養護者へ関わっていったらよいか十分に確立されてはいないと感じている。本研究では、養護者支援の方法論を確立し、どのように養護者に向き合っていくかを明らかにする。

II. 研究方法

☐文献研究 ☐実証研究 ☐量的研究 ☐質的研究 ☒実践研究

本研究では、高齢者虐待対応事例における養護者支援を事例研究方法により分析した。そして、次の①から④の順で養護者を理解することを進めた。

- ①虐待事例を認知行動理論（アルバート・エリスABC理論）に基づき、養護者が何故虐待をしてしまうのか、養護者の思考パターンを理解し、養護者の自動思考や中核信念を把握する事で介入の糸口を見つけるために、養護者の虐待行為を「出来事」「信念」「感情」「行動」に整理し、虐待が起きた状況を振り返り、中核信念を明らかにした。
- ②養護者が中核信念を持つに至った理由や背景を養護者の生活状況・生育歴から養護者理解を行う。
- ③養護者の信念が虐待行為にどのように影響しているか、信念がどうであれば虐待行為が起きなくなるか、起きなくするにはどうしたらよいかを考察する。
- ④養護者に対してどのような関わりが可能であるかを論理性・感情面・行動面で検討する。

III. 倫理的配慮

事例に関するデータの管理は、十分な秘密保持の配慮を行った。また、事例の使用にあつては、社団法人日本社会福祉士会の事例を取り扱う際のガイドラインに基づき、事例の内容について、その本質や分析の焦点が損なわれない範囲において特定の事例として判別できないように大幅に修正もしくは改変し、個人が特定されないように配慮した。

IV. 結果

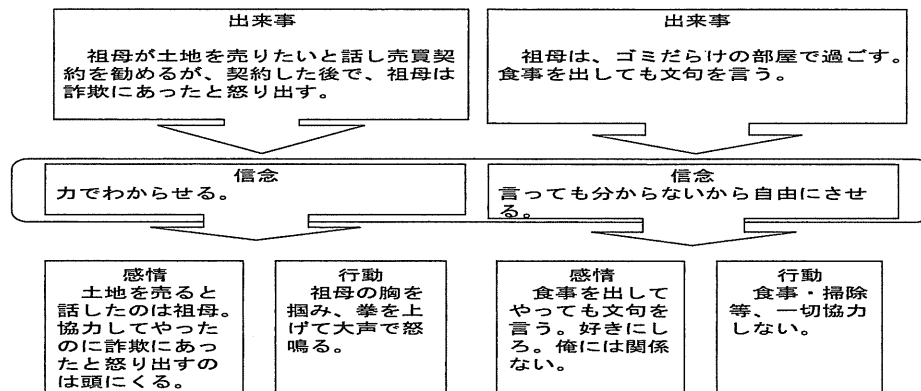
【事例】孫と認知症の祖母の2人暮らし。祖母は聴力低下しており大きな声でないと聞こえない。祖母は認知症の為に忘れることがある。

- ①次項の図参照。
- ②孫は幼少時に両親が離婚し祖母に育てられた。祖母は暴力で躰をしていた。祖母の入院費滞納の為仕事を掛け持ちして帰宅は深夜、自身のことで精一杯の生活。祖母の子は近所にいるが、一切の協力を拒否している為、孫の負担が大きい。孫・子共に祖母の認知症の理解ができない。
- ③孫自身多忙で時間がない中、言っても分からないから自由にさせている状況が続いている為改善が図れない。孫が祖母のことを考えられるように時間を取ってもらい一緒に考える。孫

が祖母の認知症を理解できる。孫自身の生活を1番に考える必要があることを伝える。

- ④論理的には、孫の生活と祖母の生活を分けて考えることを提案する。感情面には、孫自身の生活を1番に考えられるように提案し世代を超えて介護していることを支持していく。行動面では、孫の考え方を一緒に整理して祖母にとってどのような支援が必要かを考える。

図：ABC理論に基づく分析例



V. 考察

養護者支援事例を分析する中で認知行動理論を用いて養護者の理解を試みた。

- ①虐待対応では、養護者と高齢者との関係の再構築を考えた時や、養護者自身の自立に向けた支援を行う為に養護者を適切に理解する必要がある。
- ②虐待事例においては、虐待行為をしてしまう養護者が自分自身の信念に気づき、向き合うきっかけがないとその行為が繰り返されることも少なくない。
- 支援を通して、心理的虐待や「親の金は子供のもの」と考えての経済的虐待、「殴る事は駄目」と考えての身体的虐待など、養護者の誤った思考が虐待の最大要因となっているケースでは、この理論の活用は有効である。

VI. 結論

- ①虐待対応の初動期段階で認知行動理論・アプローチと連動させ、養護者が虐待行為を選んでいる信念について関係者が共通理解し、その信念が変わっていけるようにどのように関わるかが重要となる。
- ②養護者支援においては、支援者が養護者の立場に立った見方を貫き、養護者の思いを受けて止め続けること。養護者が「この人は私を受け止めてくれる人」と理解してもらうまで付き合う覚悟を持ち、連絡がきたら直ぐに対応をとることを継続していくことが大切である。
- ③その根底には「養護者は支援者の関わりによって変化する存在である」というソーシャルワーカーの人間観が必要である。

【付記】本研究は JSPS 科研費 XXXXXX (研究代表者：◇◇◇◇) の助成を受けた研究成果の一部である。

参考文献

國分康孝「論理療法の理論と実際」1999 年誠信書房

社会福祉士学会 分科会発表原稿申込チェックリスト

倫理

- ☐ 1 対象者の安全および人権の擁護、特に研究に関する知る権利、自己決定の権利に対する配慮ができています。
- ☐ 2 個人情報や秘密の保持、写真の使用などプライバシーに配慮ができています。
- ☐ 3 対象者に行った倫理的配慮を明記しています。
- ☐ 4 本会の「会員が実践研究等において事例を取り扱う際のガイドライン」を踏まえた配慮がなされています。

構成

- ☐ 1 原稿の冒頭には、タイトル、サブタイトル（任意）、発表者氏名・所属先・所属社会福祉士会・会員番号、共同研究者の氏名・会員番号・所属社会福祉士会が記載されている。
- ☐ 2 本文は、研究目的、研究方法、倫理的配慮、結果、考察、結論、を見出しに使用しながら、もしくはこれらを意識しながら構成してある。

記載様式

- ☐ 1 原稿はA4版横書き、1頁40字×40行、2枚で作成されている。
- ☐ 2 タイトル、サブタイトル、見出しは、フォントがゴシック体 10pt、太字になっている。
- ☐ 3 発表者及び共同研究者の氏名、所属先などの情報、本文は、フォントが明朝 10pt になっている。
- ☐ 4 発表者氏名の前に「○」をつけてある。
- ☐ 5 発表内容記載様式の余白は、上下左右を25ミリとしている。
- ☐ 6 本文の見出しに使用するナンバーは右記のとおりとする。 I, 1, (1), 1), ①
- ☐ 7 図、表、写真はそのまま製版可能な水準で、通し番号、タイトルが付されている。
- ☐ 8 和文中では算用数字、括弧、句読点は全角、英文中では半角に統一されている。
- ☐ 9 参考文献は適切に記載されている。

以上の投稿チェックリストに基づき提出する原稿をチェックし、すべての項目について適切に記載してあることを確認しました。

発表者氏名（自署）

社会福祉士学会 分科会発表申込書【G分科会（自主企画シンポジウム）】

企画責任者	ふりがな	所属する都道府県社会福祉士会名：		
	氏名	会員番号：		
	所属先名称	職種または役職		
	連絡先（自宅・勤務先）			
	住所：〒	TEL	:	
				メールアドレス：
シンポジウムテーマおよびシンポジウムの概要				
テーマ： シンポジウムの目的： 期待する成果： シンポジウムの展開イメージ：				
	＜氏名＞	＜所属社会福祉士会名＞	＜会員番号＞	＜所属＞
コーディネーター：				
シンポジスト：				
使用希望の機器の有無： 有（ ）・ 無				
配布資料： 有 ・ 無				
学会運営委員会への連絡及び問い合わせ事項				

確認事項

1. 会場の後方まで見えない場合がありますので機材の使用は必要最小限とし、できるだけ印刷した資料をご用意ください。なお、印刷は学会運営委員会や全国大会実行委員会では行いません。
2. 本シンポジウムの場合は、パソコンやプロジェクタを持ち込んでのパワーポイント使用が可能です。その場合、機材の設置は発表者でお願いします。
3. 会場によっては持ち込み料が発生する場合がありますのでご注意ください。スクリーンは会場で用意します。

以上のことを確認の上、申込いたします。

企画責任者氏名（自署）

社会福祉士学会 分科会発表申込書【G分科会（自主企画シンポジウム）】 記入例

企画 責 任 者	ふりがな ふくし たろう	所属する都道府県社会福祉士会名：	〇〇〇社会福祉士
	氏名		
	福 社 太 郎	会員番号： ７ ７ ７ ７ ７	
	所属先名称	職種または役職	
	□▽○○△	□□□□	
	連絡先（自宅・勤務先）		
住所：〒８８８－８８８８		TEL ： □□□－□□□□－□□□□	
□□県○○市△△△		メールアドレス：○○○○○@○○○○○○○○○○	

シンポジウムテーマおよびシンポジウムの概要

テーマ：

入所型施設における苦情解決システムの課題と展望～真の利用者支援の仕組みを目指して～

シンポジウムの目的：

利用者支援の仕組みのひとつとして、社会福祉施設においては苦情解決のシステムが導入にされているが、真に利用者支援の仕組みとして機能しているのか、ということが課題となっている。本シンポジウムでは、異なる施設において苦情解決にかかわる職員と、第三者委員として活動する社会福祉士がシンポジストとなり、入所型施設に共通する苦情解決システムにおける課題を明確化する。さらに、真の利用者支援となる苦情解決のシステムを実現するために課題解決におけた取り組みのあり方を展望する。

期待する成果：

現在、社会福祉士が入所型施設の第三者委員として活動をしているので、本シンポジウムを通して社会福祉士同士が苦情解決システムにおける課題やその解決におけた取り組みについて共有化することができる。また、サービス提供者の立場にある社会福祉士にとっても、真に機能するシステムとしての苦情解決のあり方を再検討する機会となり、苦情解決システムを通して、社会福祉士としていかに利用者支援に取り組むことができるのかについて、議論を深めることができる。

シンポジウムの展開イメージ：

１．趣旨説明

コーディネーターより説明を行う

２．発表

- (1) シンポジスト A：特別養護老人ホームの生活相談員として、食事の誤飲事故によって利用者が入院したときの対応方法と、A D L の評価について家族の理解が得られなかった事例を紹介する。
- (2) シンポジスト B：障害者支援施設のサービス管理責任者として利用者と家族に対して事業所の老朽化による建て替え工事に伴い転居を求めているが、生活環境の変化を望まない利用者との家族がかたくなに拒否する事例を取り上げて、実際の対応を紹介する。
- (3) シンポジスト C：第三者委員会として活動している社会福祉士として、実際に関わった相談の内容を時系列で紹介し、苦情受付から終結までのプロセスを通して成果と課題を紹介する。

３．パネルディスカッションにおける討議のポイント

- (1) 事業所における苦情受付対応システムの有効性
 第三者委員の日常的な活動状況、職員の意識
 運営適正化委員会の果たす役割、など
- (2) 家族支援と苦情解決
 制度の理解が困難な利用者とその家族に対する支援の在り方
 認知症と家族の会が受けている相談内容から見える問題
- (3) 事業所での対応限界と利用者の権利擁護
 行政との連携を視野にした活動の必要性和、そのタイミング。

市町村長申立や困難事例へのチームアプローチのあり方

4. 質疑応答

5. まとめ

(1) 第三者委員会の成果と課題

利用者の支援に必要な仕組みや対応ができているか、課題は何か

(2) 利用者の立場からみた苦情解決の支援ポイント

意思表示ができる支援と、スケジュールの両立をどのように考えるか

(3) 家族、地域、行政との連携による苦情への対応

入所施設との関わり方と意識の問題をどのように考えるべきか

	〈氏名〉	〈所属社会福祉士会名〉	〈会員番号〉	〈所属〉
コーディネーター：	福祉 太郎	〇〇〇	77777	□▽〇〇△
シンポジスト	： A〇〇 〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇〇
	B△△ △△△	△△△	△△△△	△△△△△
	C□□ □□□	□□□	□□□□	□□□□□
使用希望の機器の有無：	☒ 有	(パソコン、プロジェクタ) ・ 無		
配布資料	：	☒ 有	・ 無	
学会運営委員会への連絡及び問い合わせ事項				
特になし				

確認事項

1. 会場の後方まで見えない場合がありますので機材の使用は必要最小限とし、できるだけ印刷した資料をご用意ください。なお、印刷は学会運営委員会や全国大会実行委員会では行いません。
2. 本シンポジウムの場合は、パソコンやプロジェクタを持ち込んでのパワーポイント使用が可能です。その場合、機材の設置は発表者をお願いします。
3. 会場によっては持ち込み料が発生する場合がありますのでご注意ください。スクリーンは会場で用意します。

以上のことを確認の上、申しいたします。

企画責任者氏名（自署）

福祉 太郎

第22回 日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会(鹿児島大会)

全国大会プレ企画『事例研究ワークショップ』

日本社会福祉士会・学会運営委員会では、社会福祉士が自ら日々の実践を振り返り、より良いソーシャルワークを展開すること、また会員の実践研究能力を高め社会福祉士学会での発表や研究誌への投稿につながるよう、大会の開催に合わせて「事例研究ワークショップ」と「実践研究ワークショップ」を隔年で開催しています。

本年度の「事例研究ワークショップ」では、実践力を高めるための事例検討会の開催に向けて、企画の仕方や進め方等をワークショップ形式で学びます。「事例研究の方法」は社会福祉士会の基礎研修のカリキュラムにも含まれている重要な内容です。この機会に、ぜひふるってご参加ください。

1. 日 時：2014年7月5日(土) 9:15～11:45

2. 会 場：宝山ホール3階 第6会議室

3. プログラム：

時 間	内 容	講 師
9:00	受付開始	竹之内 章代 (学会運営委員会 委員)
9:15	オリエンテーション	
9:20	事例の紹介、事例の共有 グループ討議・発表 ふりかえり	
11:45	終了	

4. 対 象 者：都道府県社会福祉士会会員の方のみご参加いただけます。(入会手続き中を含む)

5. 定 員：先着50名

6. 参 加 費：2,500円(資料代込)

7. 申込方法：申込書に必要事項を記入のうえ、郵便またはFAXにてお申し込みください。

(郵送の場合には申込書のコピーを送付し、原本はお控えください。お電話での申し込みは、受け付けません)

8. 申込締切：2014年5月23日(金)(※申込期限にかかわらず、定員に達し次第、締切とさせていただきます。)

9. 受講決定：受講の可否については、6月5日頃までに郵便にてご連絡します。会場案内、参加費の納入方法およびキャンセル等の扱いについては、受講可否の連絡時にご連絡します。

10. 申し込み先：(社)日本社会福祉士会 事務局 担当：草川

〒160-0004 東京都新宿区四谷1-13 カタオカビル2階 TEL:03-3355-6541 FAX:03-3355-6543

事例研究ワークショップ 申込書 (FAX:03-3355-6543)

氏 名	ふりがな 氏 名 (男・女)		
会 員 番 号		所属都道府県社会福祉士会	
連絡先・送付先住所 (□自宅 □勤務先)	〒		
勤務先名			
業務種別			
連絡先電話番号	※平日の日中に連絡のつく番号をご記入ください。		
E-mail アドレス			
受講にあたって配慮が必要な ことなどをご記入ください。			

1、お申込方法

- (1) 本大会へのご参加及び宿泊等のお申込みは、大会WEBサイトよりお申込みいただくか、または別紙添付の申込書に必要事項をご記入の上、トップツアーへ、FAXまたは、郵送にてお申込みください。

(<https://conv.toptour.co.jp/shop/evt/jacsw2014/>)

- (2) 本大会へのWEBサイトからのお申込みは、平成26年3月3日(月)より可能となります。

- (3) 参加申込後の事務手続きはお申込み方法により異なりますのでご注意ください。

＜FAX・郵送にて申込みの方＞

申込書を受信後、弊社より着信確認の連絡を差し上げます。

お申込の登録作業終了後(～2週間程を要します。)、お申込代表者様宛に「参加登録等回答・確認書」を送付致します。

ご希望通りの内容でご参加・ご宿泊いただけない場合はご連絡を差し上げ、調整させていただきます。

請求書及びご登録内容内訳は6月中旬頃に大会参加券・各種利用券等とともに送付させていただきますので、所定の期日までにお支払い下さい。

＜WEB申込みの方＞

マイページでお申込手續完了後、登録されたメールアドレスに確認メールが送付されますので必ずご確認ください。

確認メールが届かない場合は、お手数をお掛けいたしますが、下記の連絡先までご一報下さい。

マイページ内ではお申込内容の確認やお支払い方法の選択ができます。

請求書及びご登録内容内訳は6月中旬頃に大会参加券・各種利用券等とともに送付させていただきますので、所定の期日までにお支払い下さい。

- (4) 「ご請求書」到着後、お支払いは、銀行振り込みにて指定口座へお願いいたします。

(振込手数料はお客様にてご負担願います。)

本大会申込WEBサイトよりお申込みの方は、銀行振り込み又は、オンラインクレジットにてお支払いできます。

- (5) お申込み締め切り日は、平成26年5月30日(金)でございます。できるだけ早いお申込みをお願いいたします。

《個人情報の取り扱いについて》

大会申込の際にご提出いただいた個人情報については、参加者との連絡調整、参加者名簿作成等、大会事業の目的以外で使用することはなく、無断で他者に提供することはありません。

2、お申込先

トップツアー株式会社 鹿児島支店 「日本社会福祉士会全国大会」係 宛

〒890-0053 鹿児島県鹿児島市中央町12-2 明治安田生命鹿児島中央町ビル2階

TEL099-257-3133 / FAX099-257-0115 / E-mail:kagoshima2@toptour.co.jp

受付時間 : 10:00～17:00(月～金)

3、参加費について

日本社会福祉士会会員 : 9,000円 / 一般 : 10,000円 / 学生 : 4,000円

※ご入会手続中の方は会員扱いとなります。

※参加取消しの場合は取消料金一覧を参照願います。

※参加費は大会事務局に代わりトップツアー様が代行収受いたします。

4、手話通訳・介助・託児等が必要な方へ

手話通訳・介助・託児が必要な方は、申込書の『ご希望の方』欄の該当項目へ○の上、その他の詳細事項については、備考・通信欄へ記入願います。

5、分科会について

期日：2014年7月6日(日)

<A分科会> 「変化する社会構造と権利擁護」(社会福祉士が捉える「権利擁護」)

<B分科会> 「変化する社会構造と生活構造」(社会福祉士が捉える「生活構造」)

<C分科会> 「変化する社会構造と相談援助」(社会福祉士が捉える「相談援助」)

<D分科会> 「変化する社会構造と地域支援」(社会福祉士が捉える「地域支援」)

<E分科会> 「変化する社会構造と福祉経営」(社会福祉士が捉える「福祉経営」)

<F分科会> 「変化する社会構造と実践研究」(社会福祉士が捉える「実践研究」)

<G分科会> 自主企画シンポジウム

<H分科会> 鹿児島大会特別分科会

<I分科会> 海外研修等報告会

分科会会場はかごしま県民交流センターです。

6、宿泊のご案内 (トップツアー(株)の募集型企画旅行です。)

最少催行人員：1名、添乗員は同行致しません。

部屋タイプ：洋室、バス付き。(但し、レム鹿児島の浴室はバスタブではなくシャワーブースになります。)

【設定日：7月4日(前泊)・5日(当日泊)・6日(後泊)】(お一人様あたり1泊朝食付・税金サービス料込)

申込番号	ホテル名	地図 番号	部屋	宿泊代金 (朝食付)	鹿児島中央 駅よりの移 動時間	路面電車の 最寄電停	宝山ホール までの移動 時間
1-S	サンフレックス鹿児島	①	1名1室	7300円	車8分	いづろ通り	徒歩5分
1-T			2名1室	7000円			
2-S	リッチモンド鹿児島金生町	②	1名1室	7300円	車8分	朝日通	徒歩2分
3-S	チサンイン鹿児島	③	1名1室	7000円	車8分	天文館通り	徒歩8分
3-T			2名1室	5500円			
4-S	鹿児島ワシントンホテルプラザ	④	1名1室	7200円	車8分	天文館通り	徒歩10分
5-S	レム鹿児島	⑤	1名1室	7900円	車8分	天文館通り	徒歩10分
6-S	ブルーウェーブイン鹿児島	⑥	1名1室	6700円	車8分	天文館通り	徒歩12分
7-S	法華クラブ鹿児島	⑦	1名1室	6900円	車8分	高見馬場	徒歩13分
8-S	かごしまプラザホテル天文館	⑧	1名1室	6200円	車8分	市立病院前	徒歩13分

9-S	鹿児島東急イン	⑨	1名1室	8200円	徒歩3分	高見橋	車で7分
9-T			2名1室	7500円			
10-S	ホテルタイセイアネックス	⑩	1名1室	6900円	徒歩3分	高見橋	車で7分
10-T			2名1室	5800円			
11-S	ホテルアービック鹿児島	⑪	1名1室	6600円	徒歩1分	鹿児島中央駅前	車で9分
12-S	ソラリア西鉄ホテル鹿児島	⑫	1名1室	9300円	徒歩3分	鹿児島中央駅前	車で7分
12-T			2名1室	9000円			
13-S	城山観光ホテル	⑬	1名1室	11000円	車10分 ※懇親会場	市役所前	車で9分
13-T			2名1室	11000円			

7、航空パックについて（トップツアー(株)の募集型企画旅行です。）

東京・大阪方面からご参加の皆様には往復航空券(JAL)と宿泊をセットに致しました航空パックをご案内致します。

※ 旅行代金に含まれるもの

往復の航空運賃(個人包括旅行割引運賃適用、羽田空港利用時の空港施設使用料。)

宿泊代(シングル利用、2泊2朝食付。消費税等諸税。)

※最少催行人員は1名、添乗員は同行致しません。

※出発日 平成26年7月4日(金)～5日(土)

【 東京便 】 往路:7/4～5 復路:7/6～7

申込 記号	羽田発	鹿児島着	便名	申込 記号	鹿児島発	羽田着	便名
T①	6:25	8:25	1861	T⑨	8:10	9:40	1864
T②	8:10	10:05	1863	T⑩	9:15	10:45	1866
T③	11:05	13:05	1865	T⑪	10:55	12:25	1868
T④	12:15	14:15	1867	T⑫	13:45	15:15	1870
T⑤	13:40	15:40	1871	T⑬	14:55	16:25	1872
T⑥	16:30	18:30	1873	T⑭	16:25	17:55	1874
T⑦	18:00	20:00	1875	T⑮	19:10	20:40	1876
T⑧	19:00	21:00	1879	T⑯	20:40	22:10	1878

【パック料金:東京便】 お一人様当り

指定ホテル	申込記号	航空パック料金 (2泊3日)	延泊料金 (1泊朝食付)
鹿児島東急イン	A	¥45000	¥8000
ホテルタイセイアネックス	B	¥42600	¥6600
法華クラブ鹿児島店	C	¥42800	¥6900
かごしまプラザホテル天文館	D	¥41600	¥6400

【 大阪便 】 往路:7/4～5 復路:7/6～7

申込 記号	伊丹発	鹿児島着	便名	申込 記号	鹿児島発	伊丹着	便名
O①	7:40	9:05	2401	O⑨	7:55	9:10	2400
O②	9:40	11:05	2403	O⑩	9:35	10:50	2402
O③	11:20	12:45	2407	O⑪	11:35	12:50	2404
O④	13:20	14:45	2409	O⑫	13:15	14:30	2406
O⑤	15:00	16:25	2411	O⑬	15:55	17:10	2410
O⑥	17:40	19:05	2415	O⑭	17:15	18:30	2412
O⑦	19:00	20:25	2419	O⑮	18:55	20:10	2414

【 パック料金:大阪便 】 お一人様当り

指定ホテル	申込記号	航空パック料金 (2泊3日)	延泊料金 (1泊朝食付)
鹿児島東急イン	E	¥38000	¥8000
ホテルタイセイアネックス	F	¥35600	¥6600
法華クラブ鹿児島店	G	¥35900	¥6900
かごしまプラザホテル天文館	H	¥34600	¥6400

8、オプションツアーについて

※大会参加者のオプションツアーは、トップツアー(株)鹿児島支店が旅行企画・実施する「募集型企画旅行」です。

◆募集人員：各コース40名 最少催行人員：各コース25名

添乗員は同行致しません。

◆ご旅行代金に含まれるもの【貸切バス代・宿泊代(1泊夕食付き)・入場料・昼食代(2日目)・乗務員費用】

【指宿温泉・知覧コース】 お一人様ご旅行代金 29,000円

7月6日 (日)	県民交流センター 16:20	===	指宿温泉(泊)	指宿いわさきホテル(予定)	砂蒸し温泉体験 17:30
7月7日 (月)	指宿温泉 8:30	===	長崎鼻 9:00	===	知覧特攻平和会館～武家屋敷 9:40
	本場大島紬の里(昼食) 12:20	===	維新ふるさと館 13:40	===	鹿児島中央駅 14:20
				===	鹿児島空港 15:10
					15:20
					16:00

【隼人温泉・霧島コース】 お一人様ご旅行代金 27,000円

7月6日 (日)	県民交流センター === 隼人温泉(泊) ホテル京セラ(予定)									
	16:20					17:00				
7月7日 (月)	隼人温泉 === 福山黒酢の里 === 上野原縄文の森展示館 ===									
	8:30		9:00		9:40		10:10		11:10	
	霧島神宮(昼食) ==		まほろばの里 ==		鹿児島空港 ===		鹿児島中央駅			
	12:00		13:10		13:40		14:40		15:20	
									16:00	

・お申込は申込受付順とし、満員になり次第、締切りとさせていただきます。

・申込人員が最少催行人員に満たない時は旅行開始日の前日から起算してさかのぼって20日目にあたる日より前に旅行中止のご通知を致します。

お部屋は洋室(バス付)の2名1室利用になりますので、同室希望者名をご記入下さい。

一人部屋ご希望の場合の追加料金は 指宿いわさきホテル6000円、ホテル京セラ2500円です。

・行程は交通事情により時間に変更になる場合がございますので、接続の航空便・JR便等の予約をされる場合は余裕を持ってお願い致します。遅延による交通機関の取消料に関しては当方では負担できません。何卒ご了承の程お願い致します。

9、懇親会について

- (1) 開催日時場所：平成26年7月5日(土) 18時30分『城山観光ホテル』
- (2) 懇親会参加費：会員・一般・学生とも 8,000円(食事代、飲み物代を含みます。)
(分科会会場より無料シャトルバスをご準備致します。)

10、昼食お弁当について

- (1) 昼食お弁当：大会2日目/7月6日(日) お弁当お茶付にて1,000円(税込)
- (2) 受け渡し場所：県民交流センター 2階 お弁当受け渡し専用カウンター

11、取消料について

※変更・取消の際は、二重線で見え消し記入をしてFAX、郵送にて書面をご送付下さい。

ホームページよりお申込の方は、マイページ内にてご変更ください。電話での取消・変更は一切受付いたしません。

※取消日とはお客様が当社の営業日・営業時間内にお申し出いただいた日とします。

(1) 参加費につきましては、取消発生日により下記取消料を申し受けます。

契約解除の日		取消料
開催日の前日 から起算して	21日前	無料
	20日目前から8日前まで	旅行代金の50%
	7日前から当日まで	旅行代金の100%

(2) 懇親会費につきましては、取消発生日により下記取消料を申し受けます。

契約解除の日		取消料
開催日の前日 から起算して	7日前	無料
	6日目前から2日前まで	旅行代金の50%
	前日から当日まで	旅行代金の100%

(3) 弁当代につきましては、取消発生日により下記取消料を申し受けます。

契約解除の日		取消料
利用日の前日 から起算して	8日前まで	無料
	7日前から前日まで	旅行代金の50%
	利用日当日の取消	旅行代金の100%

(4) 宿泊代につきましては、取消発生日により下記取消料を申し受けます。

契約解除の日		取消料
旅行開始日の前日 から起算して	旅行開始日の7日前から2日目まで	旅行代金の20%
	旅行開始日前日の解除	旅行代金の40%
	旅行開始日当日の解除	旅行代金の50%
	旅行開始後の解除又は無連絡不参加	旅行代金の100%

※宿泊プランは宿泊当日15時までに当支店または施設に取消連絡がない場合は、無連絡不参加として取り扱い100%の取消料を申し受けます。

(5) 航空パック・オプションツアーにつきましては、取消発生日により下記取消料を申し受けます。

契約解除の日		取消料
旅行開始日の前日 から起算して	旅行開始日の20日前から8日目まで	旅行代金の20%
	旅行開始日の7日前から2日前まで	旅行代金の30%
	旅行開始日前日の解除	旅行代金の40%
	旅行開始日当日の解除	旅行代金の50%
	旅行開始後の解除又は無連絡不参加	旅行代金の100%

留意事項

★申込記入の注意事項

- 1、申込代表者欄の代表者の方と一緒に記入された参加者のすべての書類及び請求書をまとめて送付いたします。
送付先や請求先が違う場合はそれぞれ別々に参加お申込書へご記入ください。
- 2、手話・介助・託児・その他配慮の必要な方はそれぞれの項目に○を付けてください。
- 3、分科会の欄は参加希望の分科会の記号を記入の上、懇親会、昼食の欄、それぞれに必要な方は○を付けてください。
- 4、宿泊の欄は、希望の宿泊日に○をして、ホテル欄に『申込番号』を明記ください。
ご希望の宿泊施設がお取りできない場合がございます。希望宿泊施設は必ず第3希望まで明記ください。
- 5、ツインをご希望の場合は、同室希望の欄に相手の方の名前を明記ください。

旅行条件について(要約)

お申込の際には、必ず旅行条件書(全文)をお受け取りいただき、事前に内容をご確認のうえお申込みください。

●募集型企画旅行契約

宿泊プラン・航空券セットプラン・オプションツアーはトップツアー(株)鹿児島支店(観光庁長官登録旅行業第38号。以下「当社」という)が企画・実施する旅行であり、この旅行に参加されるお客様は当社と募集型企画旅行契約(以下「旅行契約」という)を締結することになります。また、旅行条件は、下記によるほか、別途お渡しする旅行条件書(全文)、出発前にお渡しする最終日程表と称する確定書面及び当社旅行業約款募集型企画旅行契約の部によります。

●旅行代金のお支払い

旅行代金は旅行出発日の前日からさかのぼって13日目にあたる日より前(お申し込みが間際の場合は当社が指定する期日までに)にお支払ください。また、お客様が当社提携カード会社のカード会員である場合、お客様の署名なくして旅行代金、取消料、追加諸費用などをお支払いいただくことがあります。この場合のカード利用日は、お客様からお申し出がない限り、お客様の承諾日といたします。

●旅行代金に含まれるもの

旅行日程に明示した宿泊費、食事代、及び消費税等諸税。これらの費用は、お客様の都合により一部利用されなくても原則として払い戻しいたしません。(コースに含まれない交通費等の諸費用及び個人的費用は含みません。)

●特別補償

当社は、当社又は当社が手配を代行させた者の故意又は過失の有無にかかわらず、募集型企画旅行約款別紙特別補償規程に基づき、お客様が募集型企画旅行参加中に急激かつ偶然な外来の事故により、その身体、生命又は手荷物上に被った一定の損害について、以下の金額の範囲において、補償金又は見舞金を支払います。

・死亡補償金:1500万円 ・入院見舞金:2~20万円 ・通院見舞金:1~5万円 ・携行品損害補償金:お客様1名につき~15万円(但し、補償対象品1個あたり10万円を限度とします。)

●個人情報の取扱について

当社及び販売店は、旅行申込の際に提出された申込書等に記載された個人情報について、お客様との間の連絡のために利用させていただくほか、お客様がお申し込みいただいた旅行において運送・宿泊機関等の提供するサービスの手配及びそれらのサービスの受領のために手続に必要な範囲内で利用させていただきます。

●取消料

旅行契約成立後、お客様の都合で契約を解除されるときは、別途記載の通りの金額を取消料として申し受けます。

●この旅行条件は2014年1月20日を基準としています。

又、旅行代金は2014年1月20日現在の有効な運賃・規則を基準として算出しております。

詳しい旅行条件を掲載した書面を別途お渡しいたしますので事前にご確認のうえお申込みください。

※旅行業務取扱管理者とは、お客様の旅行を取り扱う営業所での取引の責任者です。この後旅行の契約に関し、担当者から説明にご不明な点がございましたら、ご遠慮なく旅行業務取扱管理者にご質問ください。

14-5827-A

旅行企画・実施

トップツアー株式会社
鹿児島支店



観光庁長官登録旅行業第38号
JATA正会員 旅行業公正取引協議会会員
bond保証会員
鹿児島市中央町12-2, 明治安田生命ビル2F
TEL: 099-257-0109
総合旅行業取扱管理者 : 堂森 克洋

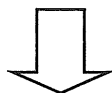
お申込の手順（流れ）

【お願い】 お電話によるお申込は、一切お受けできませんので予めご了承願います。

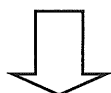
- 大会用宿泊はトップツアー(株)鹿児島支店が企画・実施する募集型企画旅行です。
 - 懇親会・弁当の申し込みは旅行契約には該当いたしません。
 - 別紙詳しい旅行条件書を一読の上、大会参加、宿泊等下記のとおりでお申込ください。
 - お申込内容によって、『参加ネームカード』、『分科会参加券』、『宿泊券』、『懇親会参加券』、『昼食弁当引換券』をお送りいたします。
 - 電話での取消・変更はトラブルの原因になりますので、一切お受付いたしかねます。
変更・取消の際は、『申込用紙』の変更箇所を二重線で見え消し記入をして弊社宛にFAXにてご連絡くださいますようお願いいたします。
- 本大会申込WEBサイトよりお申込の方は、マイページ内にてご変更ください。

※大会WEBサイトは、下記のホームページよりご確認ください。
公益社団法人 鹿児島県社会福祉士会 (<http://csw-kagoshima.org/>)

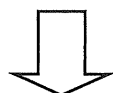
大会開催要綱を全国へ配布
＜ 平成26年3月上旬 ＞



トップツアー(株)鹿児島支店 へ参加申込
【締切:平成26年5月30日(金)】



WEBより申込の方



FAX・郵送による申込の方



参加申込書到着後
FAXにて受信確認を返信致します。

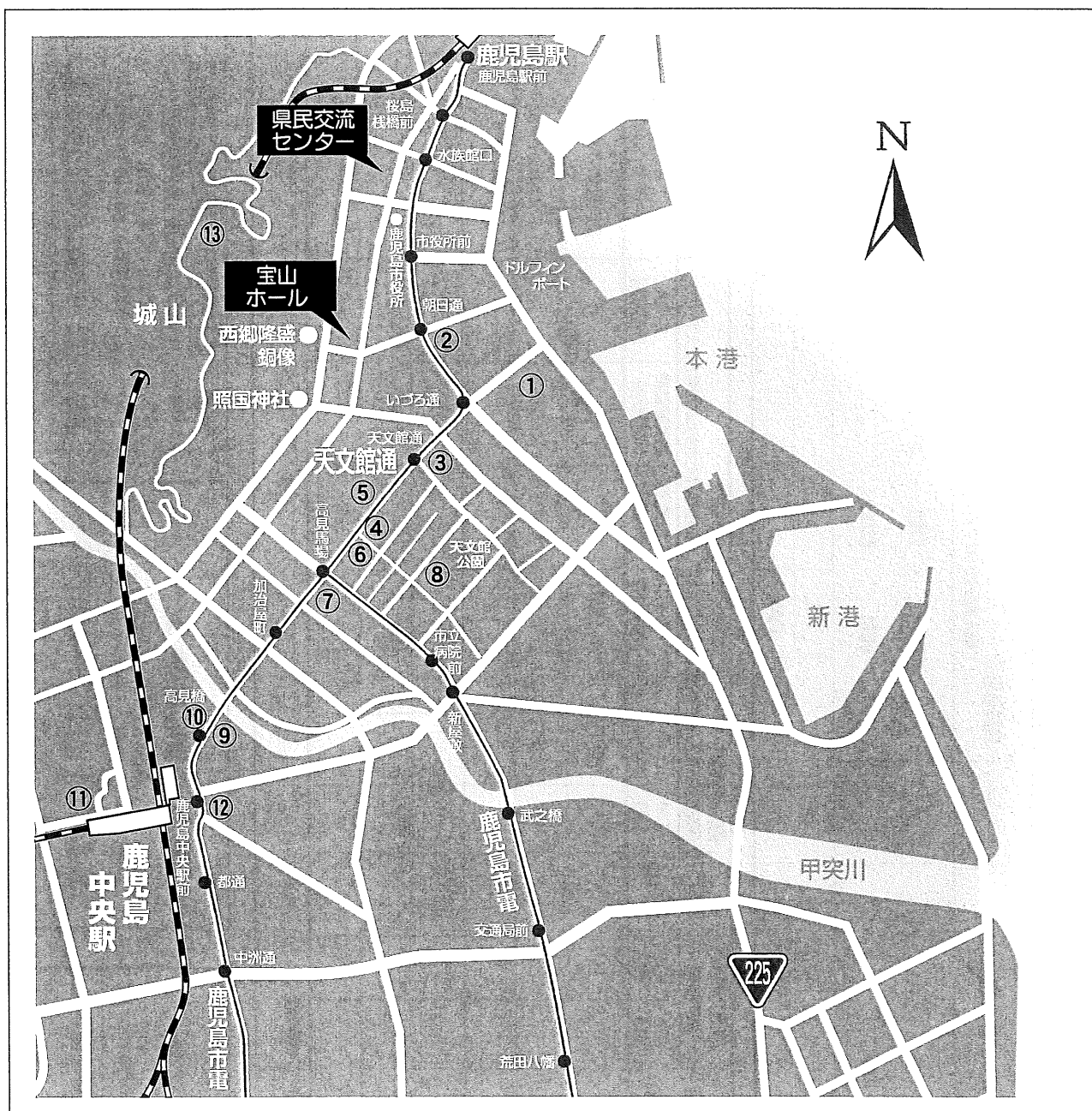


『大会参加券・各種参加券・請求書(原本)』発送
＜ 6月中旬頃 ＞



下記期日までに必ずご入金くださいませ。
＜ 6月25日(水)迄 ＞
(入金確認時点で契約成立となります。)

宿泊施設マップ



宿泊ホテル

- | | |
|-------------------|-----------------|
| ① ホテルサンフレックス鹿児島 | ⑧ かごしまプラザホテル天文館 |
| ② リッチモンドホテル鹿児島金生町 | ⑨ 鹿児島東急イン |
| ③ チサンイン鹿児島 | ⑩ ホテルタイセイアネックス |
| ④ 鹿児島ワシントンホテルプラザ | ⑪ ホテルアービック鹿児島 |
| ⑤ レム鹿児島 | ⑫ ソラリア西鉄ホテル鹿児島 |
| ⑥ ブルーウェーブイン鹿児島 | ⑬ 城山観光ホテル |
| ⑦ ホテル法華クラブ鹿児島 | |

第22回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会（鹿児島大会）参加申込書

送付FAX先 099-257-0115 ※必ず控え（コピー）をお渡しください。 申込日 月 日

※必ず控え（コピー）をお渡しください。 申込日 月 日

都道府県 鹿児島	フリガナ： フリガナ	申込み代表者	会員番号	※入会手續中の方は、『入会手續中』と記入下さい。
参加券等送付先 （自宅・勤務先） ※該当に○印を お願いします。	〒	フリガナ	ご希望の方	手話通訳 ・ 介助 ・ 車椅子 託児 ・ その他（ ）
上記で勤務先を 選ばれた方は	連絡先電話番号： 携帯電話番号：	FAX： Eメール：	TEL	
	勤務先名： 所属先名：		FAX	

受付NO	
受付日	月 日
入金日	月 日
入金額	円

※ 上記は当社使用欄

No.	フリガナ 氏 名	性 別	参加形態 会費 ¥9,000 一般 ¥10,000 学生 ¥4,000 宿泊のみ	懇親会 ¥8,000	7/5 分科会 参加希望		7/6 昼食 ¥1,000	宿泊希望ホテル （希望日に申込み番号を記入下さい。）				航空パック （希望航空便とホテルの記号を記入下さい）				備考 喫煙・禁煙・ 同室希望者
					第一希望	第二希望		7/4 前泊	7/5 当日泊	7/6 後泊	ホテル 第2希望	往路航空便 申込記号	復路航空便 申込記号	ホテル 申込記号	7/4 T③	
例	サバ 門 薩摩 花子	女	会員	○	A	B	○	12-S	12-S	X	2-S	7/4 T③	7/7 T⑤	A	指宿温泉・知覧	
1		男 女														
2		男 女														
3		男 女														
4		男 女														
5		男 女														

◆ご希望される分科会が定員に到達した場合、ご希望に添えない場合がございます。ご了承ください。

◆通信欄

銀行名	銀行 金庫 組合	支店 本店
フリガナ	普通・当座	口座番号
口座名義		

《費用振込先》

銀行名：鹿児島銀行 中央支店
口座番号：普通預金口座 1498584
口座名義：トップツアー(株)鹿児島支店

*振込み期限 6月25日(水)

TOP TOUR

（申込書送付先・問い合わせ先）
トップツアー(株) 鹿児島支店
担当：塚本・永田・田原
〒890-0053 鹿児島市中央町12-2
明治安田生命鹿児島中央ビル2階

『第22回 日本社会福祉士会全国大会・
社会福祉士学会鹿児島大会』専用デスク
TEL:099-257-0109 FAX:099-257-0115
営業時間：平日9:00-18:00 土・日・祭日休み

※お申込書欄が不足の場合はこの申込書をコピーしてご利用ください。 ※当社はこの申込書の個人情報について、本大会受付業務以外の目的に使用することはありません。